

## 平成 27 年度 消費者庁先駆的プログラム

## 《元気な高齢者への情報提供モデル事業（1,573 千円）》アンケート調査結果（速報）

## I 調査の概要

## 1 調査目的

元気な高齢者に効果的で確実な情報提供を行うために、アンケート調査を実施したうえでモデル事業を実施するもの。併せてメールによる情報提供の効果を検証する。

## 2 調査対象

- ・調査地域 富山県全域
- ・調査対象 元気な高齢者
- ・配布数 1,600 枚

## 3 調査期間

平成 27 年 5 月 12 日（火）～平成 27 年 8 月 20 日（木）

## 4 調査方法

県消費生活推進リーダーやくらしのアドバイザーなどによる消費生活出前講座や、県警察の防犯教室・安全教室の開催時において調査票を配布。その場でご記入いただき回収。

## 5 回収結果

配布数	1,600
有効回収数	1,388
回収率	86.8%

## II 回答者の基本情報

- ①性 別：「男性」28.3%、「女性」66.4%と女性の割合が高くなっている。
- ②年 齢：「74～70 歳」が 25.2%で最も高く、次いで「79～75 歳」が 22.0%、「80 歳以上」が 21.0%となっている。（およそ 7 割が 70 歳以上）
- ③同居の家族：同居している家族は、「配偶者」が 56.5%と最も高く、次いで「子」が 42.6%、「孫」が 21.0%となっている。

## III ふだんの暮らしについて（よく出かける場所）

よく出かける場所は、「大型ショッピングセンター」が 39.3%と最も高く、次いで「田・畑」が 37.5%、「病院・医院・はりきゅう」が 32.6%となっている。

## IV 消費者トラブルについて（消費者トラブルの被害に遭うと思うか）

消費者トラブルの被害に遭うと思うかについて、「遭うはずはない」が 7.6%、「遭わないと思う」が 47.5%となっており、あわせて **5 割を超える人が消費者トラブルの被害に遭わないと思っている**。一方、「遭うかもしれない」が 17.7%、「わからない」が 17.9%となっている。

## V 各情報源の記憶への残りやすさ（どの情報源からの情報が記憶に残りやすいか※）

- ・人からの情報で記憶に残りやすいのは、「子供・孫」が 67.8%と最も高く、次いで「配偶者」が 67.5%、「友人や近所の人」が 65.6%となっている。
- ・情報媒体からの情報で記憶に残りやすいのは、「新聞」が 66.3%と最も高く、次いで「テレビ」が 66.2%、「回覧板」が 53.0%となっている。
- ・一方、情報機器からの情報は、「インターネット・スマホ」が 14.9%、「電子メール」が 13.2%となっており、記憶に残りにくい。また、全体の 4 割を超える人が、「インターネット・スマホ」及び「電子メール」を使用していない。

※上記の割合は、「かなり覚えている」及び「普通に覚えている」をあわせたもの。



## アンケート調査票 《元気な高齢者への情報提供事業》

高齢者を狙った悪質商法や振り込め詐欺などの消費者トラブルの被害が一向に減りません。

そこで、県では、特に「元気な高齢者」に対してトラブル情報を確実・効果的に伝えていくための事業を実施します。このアンケートは、事業の実施に先立って行うものです。ご協力宜しくお願いいたします。

(既にこのアンケートを受けた方は、回答いただく必要はありません。)

### 0 あなたのことについて (該当項目に○をつける。③は複数に○をつけても可。「その他」の場合は( )に具体的に記入)

- ① **性別**：男性／女性
- ② **年齢**：80歳以上／79～75歳／74～70歳／69～65歳／64～60歳／60歳未満
- ③ **同居の家族**：ひとり／配偶者／親／子／孫／その他( )

### I ふだんの暮らしについて

#### ① よく出かける場所はどこですか？

(複数(3つまで)に○をつけても可。「その他」の場合は( )に具体的に記入)

実家・子の家／友人宅／田・畑／カルチャー教室／趣味サークル／スポーツ施設／大型ショッピングセンター／地元のお店／ふれあい・いきいきサロン／映画館／公民館／図書館／銭湯／寺・神社／病院・医院・はりきゅう／薬局・ドラッグストア／その他( )／あまり出かけない

#### ② その場所には誰とよく行きますか？

ひとり／配偶者／子供・孫／友人／その他( )

### II 消費者トラブルについて (該当項目に○をつける。「その他」の場合は( )に具体的に記入)

あなたは消費者トラブルの被害に遭うと思いますか？

被害に遭うはずはない／被害に遭わないと思う／被害に遭うかもしれない／わからない／その他( )

### III 以下の人または情報源から、消費者トラブルの情報が伝えられたら、あなたはどのくらい覚えていますか。

①～⑮のそれぞれについてどのくらい覚えているか ○をつける。		かなり覚えている	普通に覚えている	はたらくと忘れる	すぐ忘れる	その他
人から教わった情報	① 家族(配偶者)	1	2	3	4	いない
	② 家族(子供・孫)	1	2	3	4	いない
	③ 友人や近所の人	1	2	3	4	いない
	④ 役所の人や消費生活のリーダー	1	2	3	4	関わりがない
	⑤ 福祉関係者(民生委員、ヘルパーなど)	1	2	3	4	関わりがない
	⑥ 事業者(宅配、保険外交員、銀行・郵便局など)	1	2	3	4	関わりがない
何かから知った情報	⑦ 新聞	1	2	3	4	読まない
	⑧ テレビ	1	2	3	4	見ない
	⑨ ラジオ	1	2	3	4	聴かない
	⑩ 雑誌	1	2	3	4	読まない
	⑪ パンフレット・チラシ	1	2	3	4	読まない
	⑫ 回覧板	1	2	3	4	読まない
	⑬ 講座、講習会、講演会	1	2	3	4	行かない
	⑭ インターネット・スマホ	1	2	3	4	使わない
	⑮ 電子メール	1	2	3	4	使わない

**裏面に続く**

裏面にもアンケートがありますので、裏面もご記入ください。

#### IV 消費者トラブル防止の情報を伝えるために、よい方法があれば教えてください。

(例) 家庭でよく見るもの(例えば、JRの時刻表や銀行通帳)に「悪質商法に気をつけよう」とPRしてもらったらどうか。

#### V その他

今後、モデル事業を実施するにあたって、メールによる追加アンケートを行う場合があります。ご協力いただける方はメールアドレスをご記入ください。

メールアドレス：

(上記のアドレスは(該当するものに○をつける)：パソコン／スマホ／普通の携帯)

ご協力ありがとうございました。回答いただいた内容は、本事業に係る事務以外には一切利用しません。



【調査実施】：富山県  
生活環境文化部 県民生活課 消費生活班  
TEL 076-444-3129